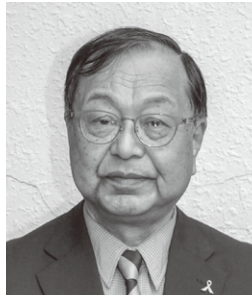


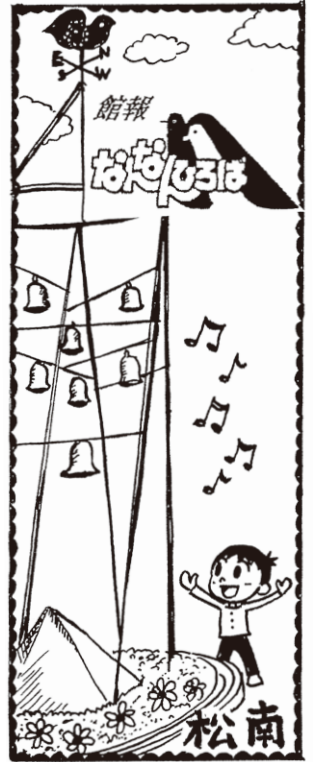
双葉町は町会発足から今年で60周年の節目の年を迎えます。世帯数も松南地区でも有数の世帯数となり、更に駅前マンション完成に伴い世帯数の増加が予想されます。しかしながら、少子高齢化と核家族化の流れは顕著な状況となっておりますが、当町会には町会活動に熱心な方が多数おられます。



双葉町町会長  
中田 景文

双葉町の中山昭町会長の後任として中田景文氏、宮田東の伊藤保男町会長の後任として金子幸治氏、の2名が新町会長に。そこで着任の挨拶をいただきました。

新町会長さん紹介



町会長として役員の皆様と一緒に町会運営に取り組んでいく所存です。



宮田東町会長  
金子 幸治

宮田東町会の金子です。大変な事になり今もまだ戸惑っております。  
ある方にそんな話をしたら「皆、同じだよ。最初からわかってる人なんていないよガンバレ」と言われ、少々気が楽になりました。  
お引き受けした以上は前を向き、町会役員の皆さん町会員の皆さんのご協力をいただき進めていきたいと思っております。また、地区役員の皆様にはご指導ご鞭撻をお願いいたします。



なんなんひろば  
新職員紹介



写真右より

南部図書館

図書館長 大和 通孝

嘱託 中村 裕子

嘱託 所 詩織

青少年ホーム

所長 中山 典明

嘱託 村瀬 アダムトミタカ

主任 竹内 賢

松南地区公民館

臨時 細沢 知央

よろしく願っています。

■青少年ホーム所長 中山典明  
この度、青少年ホームに異動してまいりました。若者の自立と社会参画の促進が図れるように頑張りたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

町会	町会長	役職分担	町内公民館長	館報編集委員
南松本1丁目	◎中田 清和	町会連合会(長) 社会福祉協議会	○中田 清和	中田 清和
南松本2丁目	犬塚 義浩	松南地区体育協会	中島 久よ	大西 織彦
双葉町	中田 景文	未来まつり実行委員(長)	白澤 幸男	白澤 幸男
双葉西	中野 豊	松南地区防災会	藤森 俊男	山本 律子
双葉南	伊藤 和彦	緑化推進協議会 花いっぱいにする会	村口 淳子	伊藤 和彦 村口 淳子
芳野町	矢ヶ崎幸一	町会連合会会計 未来まつり事務局	◎百瀬 壽	○百瀬 壽
宮田東	金子 幸治	環境衛生協議会	岡田 實	岡田 實
宮田中	○土崎 紘子	福祉ひろば推進協議会 町会連合会(副) 明るい選挙推進協	有馬みゆき	田中 紀彦
宮田西	岡田 省一	松南地区防犯協会	杉原 則男	◎塩原 保彦 近藤 晴彦

◎…代表者 ○…副代表者

平成30年度  
町会長・町内公民館長・  
館報編集委員の方々



小林まさ子さん



紙粘土作りの小林まさ子さんを紹介します。

お宅にお伺いすると、玄関の壁から廊下や、各お部屋に、大小さまざまな作品が飾られていて、びっくりしました。

お話を聞きますと、平成2年に、なんなんひろば(現在の松南地区公民館)が新設され、同時に趣味の講座の募集があり、始めは牛乳パックでハガキを作る講座に入っていました。翌年に紙粘土の講座ができたのでこちらに移り、週に2回通いました。小さいものはブローチから始め、お花の壁掛け、置物の七福神、12支の動物、など先生がいろいろな作品の見本を作ってきてくれたので、それぞれ自分の作りたい作品の見本を参考にして作りました。

紙粘土は、硬いもの、中くらいのもの、軽いものとして用途に合わせて使い分けられるけど、主に中くらいのものを使いました。最初は硬いので、水を付けながら柔らかくなるまで練って、それをちぎって、伸ばしそれぞれの形に、粘土用の道具を使い、自分の好きなように形を整えてから乾燥させます。固まったら紙やすりで丁寧にくすります。最後に絵の具で色を塗ります。その作品によつては、つや出しにラッカーを塗る物もあります。

ひとつ仕上がると楽しくて、またあれもこれもと作っているうちに、家の中が作品でいっぱいになり、お友達にもあげたりしました。心ひかれながら18年ほど通ったとおっしゃっていました。

紙粘土の他にも、和紙人形、水引手芸、木目込み人形、などを作って楽しんでいらつしやる様子が、良くわかりました。指先を使いながら、たえず新しい事に興味をもって挑戦することは素晴らしいです。私も元



おいとましました。(高橋愛子)

### 松南地区の未来図は？ 「立地適正化計画」を 考える

人口減少時代に突入し、全国的にコンパクトシティを目指す動きが盛んで、松本市も「立地適正化計画」を進めています。すなわち、中心市街地の他に「地域拠点」を7地区リストアップし、「上位の基本政策」(都市政策課)として「誘導施策」を推進しようとしています。「南松本駅周辺」もその一つで、集約化の好条件を備えた地区と見なされています。

根拠の詳細は、紙幅の都合で割愛します。しかし松南地区は、利便性の高さから工業地、住宅地、さらに市内南部を代表する商業地へと変遷してきた戦後史があります。現在も南松本駅前にマンションが建設中など、その流れは絶えません。「地域拠点」としての使命は、住民としても実感できましよう。

ただし次の点も指摘します。  
一、地区9町会のうち、宮田3町会は「居住誘導区域」、その他6町会が「都市機能誘導区域」と区分されています。  
二、地区の人口特性を見れば、

超少子高齢化の典型で、少子化は無論、市営・県営団地を中心に独居老人が22.4%(市内で2番目)を占めるなど、高齢化の課題が浮き彫りとなっています。  
三、徒歩圏内に商業施設などがあるとはいえ、中心市街地との公共交通(特にバス)の便が不十分との指摘もされています。  
農業地域、中山間地域にも欠かせぬ価値があり、コンパクトシティに集約することが未来図だとは、軽々に断じてはいけません。ですが地区の現状を直視し、住民が声をあげていくのが、現代の地方自治です。本地区は、社会福祉センター・なんぶくプラザ・南部体育館など福祉関連の拠点地区です。その特質を生かし、高齢化を支える「福祉・健康ゾーン」のモデル地区としてソフト・ハード面での検討を重ね、「誘導施策」に提言できないでしょうか。他にも地区や町会の特性を踏まえた未来図もあるはず。時代の大きな転換期、行政と連携し、生活から発した提案を「まちづくり」ではないでしょうか。

厚労省が3年に1度実施する国民生活基礎調査で平成27年時点の子どもの貧困率は13.9%(7人に1人)であった。この数字は、平均的な所得の半分以下の家庭で暮らす18歳未満の割合を示している。子どもの貧困対策大綱が平成23年に成立、生活困窮者自立支援法(平成25年)が施行され、都道府県に困窮対策計画をまとめる義務が課せられている。長野県では長野県子ども貧困対策推進計画が平成28年に策定され、松本市でも松本市子ども貧困対策庁内調整会議が開催されている。子どもの貧困は、経済状況だけでなく、適切な食事が取れているか、教育は均等に与えられているかなど視点からも取り組まなければならない。給食に頼る食事、休みになると給食はなく、「子ども食堂」は欠かせない。学校を休みがちな子どもの、勉強したい思いに込める「無料塾」も子ども居場所になっている。食事で支える「子ども食堂」学習で支える「無料塾」これは、あくまでも出発点であり、取り巻く状況は厳しい。

(白澤 幸男) (塩原 保彦)

